

TOP MUSEUM

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Yebisu Garden Place, 1-13-3 Mita Meguro-ku Tokyo 153-0062
TEL 03-3280-0099 FAX 03-3280-0033
www.topmuseum.jp

総合開館 30 周年記念

遠い窓へ 日本の新進作家 vol. 22

TOP 30th anniversary

Thoughts of a Distant Window: Contemporary Japanese Photography vol. 22

2025 年 9 月 30 日 [火] – 2026 年 1 月 7 日 [水] 3 階展示室

寺田健人 | Terada Kento

スクリプカリウ落合安奈 |
Scripcariu-Ochiai Ana

甫木元空 | Hokimoto Sora

岡ともみ | Oka Tomomi

呉夏枝 | Oh Haji



スクリプカリウ落合安奈《ひかりのうつわ》2025 年 作家蔵 ©Ana Scripcariu-Ochiai

東京都写真美術館では、写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘するとともに、新たな創造活動を紹介することを目的として、2002 年より継続的に「日本の新進作家」展を開催しています。

第 22 回となる本展では、人と時代の流れ、場所、風習といった物事との結びつきから生まれる小さな物語に焦点をあてた 5 名の新進作家の作品を紹介します。今日、多様性の尊重やインクルーシブな社会が求められています。異なる価値観を持つ人々とのコミュニケーションや共に生きることの想像力が重要になっています。

街を歩くなかで、ふと窓に目が留まり、そこに暮らす誰かの気配を感じ、そこに紡がれているであろう生活を想像した経験もあるでしょう。窓は、今ここにいる私たちを、まるで遠く離れた世界へと導いてくれる装置のようです。窓から垣間見える暮らしを想像するように、作品もまた「窓」となり、今ここにいる私たちを遠く離れた時間や場所、風景、そして記憶へ思いをめぐらせるきっかけを与えてくれます。

本展では、5 名の作家が表現する写真・映像作品を通して、今を生きる他者や社会に静かに寄り添う視点を提示します。

展覧会のポイントと出品作家

多様なバックグラウンドと表現手法を持つ 5 名の作家が参加。写真や映像を基軸としながら、インスタレーション、立体、音、言葉など、メディアを横断する手法でそれぞれの「小さな物語」を紡ぎます。タイトルにある「窓」は、他者の存在を想起させる象徴であると同時に、作品自体が「窓」のように、それぞれの時間や記憶へと見る者を導きます。作家たちの物語は、他者や異なる価値観を想像するきっかけとなり、現代社会における共生や対話について考えるヒントを与えてくれるでしょう。

寺田健人 写真を軸に、社会的な枠組みやジェンダーを問い直すインスタレーションを展開

スクリプカリウ落合安奈 日本とルーマニア 2 つの母国を背景に、土地と人との結びつきを浮かび上がらせる

甫木元空 映画、音楽、小説と多岐に渡り活動。家族の生と死を記録することで、観るものと記憶を共有する

岡ともみ 日本各地に残る死にまつわる風習や個人の記憶を古時計に閉じ込めた代表作〈サカサゴト〉を展示

呉夏枝 オーストラリア移民の歴史と個々の記憶を写しこむ代表シリーズから派生した新作を日本初公開

寺田健人 | Terada Kento

1991 年沖縄県生まれ。写真作家・美術家。東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程を修了。写真を軸に、映像や立体など多様な手法を取り入れたインスタレーションによって制作を行う。人がどのようにして「性」や「生まれ」といった社会的な枠組みによって行動や思考を方向づけられていくのかに関心を持ち、「個人的なことは政治的なこと」というラディカル・フェミニズムの視点を足がかりに、そうした構造を問い直す手段として表現を行っている。

主な展覧会：「想像上の妻と娘にケーキを買って帰る」(BankART Under35 2022、横浜)、「態度が〈写真〉になるならば」(T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO 2023、東京)、「あらがう」(福岡市美術館、2024 年、福岡)、「新収蔵品展」(福岡市美術館、2025 年、福岡) など。

受賞歴：2023 年に第 3 回 PITCH GRANT でグランプリ受賞など。



1



2

1_1 寺田健人《Famiry Box》〈想像上の妻と娘にケーキを買って帰る〉より

2021 年 作家蔵

1_2 寺田健人《I'm home with strawberry shortcake》〈想像上の妻と娘にケーキを買って帰る〉より

2021 年 作家蔵

いずれも©Kento Terada /Courtesy of Yumiko Chiba Associates

スクリプカリウ落合安奈 SCRPCARIU-OCHIAI Ana

1992 年埼玉県生まれ。2016 年東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業（首席・学部総代）。同大学博士課程修了。ポーラ美術振興財団令和 4 年度在外研修員（ルーマニア）。日本とルーマニアの 2 つの母国に根を下ろす方法の模索をきっかけに、「土地と人の結びつき」というテーマを持つ。

スクリプカリウ落合安奈《ひかりのうっわ》
2025 年 作家蔵 ©Ana Scripcariu-Ochiai



主な展覧会：「ポーラ ミュージアム アネックス展 一軌跡を辿る」（ポーラ ミュージアム アネックス、東京、2025 年）、
「北アルプス国際芸術祭 2024」（長野、2024 年）、「Blessing beyond the borders－ 越境する祝福－」（埼玉県立近代
美術館、埼玉、2020 年）などで作品を発表。

受賞歴：ARTnews Japan 「30 ARTISTS U35 2022」、「TERRADA ART AWARD 2021」 鷲田めるろ賞、「Forbes Japan 30
UNDER 30 2020」など。

甫木元空 HOKIMOTO Sora

1992 年埼玉県生まれ。映画監督、音楽家、小説家。多摩美術大学映像演劇学科卒業。在学中に青山真治
の指導を受け、卒業後、青山真治プロデュースにより、自身が監督、脚本、音楽をつとめた『はるねこ』
で映画デビュー。また、2019 年に Bialystocks を結成、22 年にメジャーデビュー。2023 年には小説「は
だかのゆめ」で小説家としてもデビュー。本展では、余命宣告を受けた甫木元の母や、祖父、時々訪ねて
くる弟、そして弟夫婦に生まれた姪と共に過ごした高知での日々をテーマに制作した作品を出品する。

主な展覧会：「ARTIST FOCUS #04 甫木元空 窓外 1991-2021」（2023 年、高知県立美術館）

主な上映歴：「BAUS 映画から船出した映画館」（2025 年）、「はだかのゆめ」（2022 年）、「はるねこ」（2016 年）



1



2_1 甫木元空 〈窓外〉より 2023 年
2_2 甫木元空 〈窓外〉より 2023 年

いずれも 作家蔵 ©Sora Hokimoto

2

岡ともみ OKA Tomomi

東京都生まれ。岡山県と東京都を拠点に活動。2019 年ベルリン芸術大学留学を経て、2022 東京藝術大学
大学院美術研究科修了。2025 年現在同研究科博士後期課程在籍。時間・記憶・反転・光と影をキーワ
ードに、「小さなモニュメント」を作ることをテーマに制作。誰かにとって大切な個人の思い出や、消えか
かっている風習など、世界から見過ごされてしまうような小さな物語を封入した装置を作り、リアリテ
ィをもった記憶の空間を場に立ち上げることを試みる。

主な展覧会：「オープン・スペース 2018 イン・トランジション」（ICC、東京、2018 年）、「オープン・スペース 2019 別の
見方で」（ICC、東京、2019 年）、個展「どこにもいけないドア」（ASK?@、東京、2018 年）など。

受賞歴：2022 年三菱地所賞受賞、同年 shiseido art egg 入選、
清流の国ぎふ Art Award IN THE CUBE 入選。



岡ともみ 《サカサゴト》2023 年
作家蔵 ©Tomomi Oka

呉夏枝 OH Haji

1976年大阪府生まれ。日本とオーストラリアを拠点に活動。京都市立芸術大学美術研究科博士号取得。主に、織や染め、ほどこ技法を用い、写真/サイアノタイプ、テキスト、音声などを併用したインスタレーション作品を制作。在日韓国人三世の出自を背景に、言葉にされなかった個人の記憶—沈黙の記憶—をめぐる制作をとおして記憶の継承の可能性を探求している。2017年から取り組む grand-mother island project では、東アジア、太平洋を往来した人々の軌跡をたよりに、海路を通じてつながる個人の物語/歴史を親密に想像、記憶するための場をつくること試みている。



呉夏枝 《Seabird Habitatscape#2-Banaba, Nauru, Viti Levu》2024年 作家蔵
Image courtesy: CHAT (Centre for Heritage, Arts and Textile), Hong Kong ©Haji Oh

主な展覧会：「アジア・パシフィック・トリエンナーレ 11」（クィーンズランド州立美術館/現代美術館、オーストラリア、2024年）、「ANTEPRIMA×CHAT Contemporary Textile Art Prize 2024」（Center for Heritage of Art & Textile、香港、2024年）、「六本木クロッシング 2022：往来、オーライ」（森美術館、東京、2022年）

受賞歴：Tokyo Contemporary Art Award 2024-2026 受賞。

出品点数、主な出品作品 66点（予定）

寺田健人 〈想像上の妻と娘にケーキを買って帰る〉、〈trace his scent〉ほか 20点

スクリプカリウ落合安奈 〈ひかりのうつわ〉 2点

甫木元空 〈窓外〉 31点

岡ともみ 〈サカサゴト〉 12点

呉夏枝 《Seabird Habitatscape#2-Banaba, Nauru, Viti Levu》〈Seabird Habitatscape〉より 1点

公式図録

『遠い窓へ 日本の新進作家 vol. 22』

B5判、160ページ、価格未定、東京都写真美術館発行

大崎千野（東京都写真美術館学芸員）による論考、出品作家5名によるステートメント、作品リストを収録。

関連事業 ※事業は諸般の事情により内容を変更する場合があります。

[出品作家とゲストによるトーク]

○10月19日（日）14:00-15:30

スクリプカリウ落合安奈（出品作家）×岡ともみ（出品作家）×竹内万里子（批評家・作家、京都芸術大学教授）

○12月27日（土）14:00-15:30

寺田健人（出品作家）×呉夏枝（出品作家）×鷺田めるろ（金沢21世紀美術館館長、東京藝術大学准教授）

会場：東京都写真美術館 1 階ホール
定員：190 名（整理番号順入場／自由席）
参加費：無料
※当日 10:00 より 1 階総合受付にて整理券を配布
※両日とも文字表示支援あり

[出品作家 甫木元空による上映]

○10 月 26 日（日）14:00- 《はだかのゆめ》アフタートーク付き
（登壇：甫木元空（出品作家）、尹雄大（インタビュアー））

○11 月 22 日（土）10:30- 《BAUS》
13:30- 《はだかのゆめ》
15:00- 《BAUS》

○12 月 13 日（土）14:00- 《1991》作家による生演奏付き

会場：東京都写真美術館 1 階ホール
定員：190 名（整理番号順入場／自由席）
参加費：無料
※当日 10:00 より 1 階総合受付にて整理券を配布します。

[担当学芸員によるギャラリートーク]

○10 月 10 日（金）14:00 -
○11 月 21 日（金）14:00 - 手話通訳付き
○12 月 19 日（金）14:00 - 手話通訳付き

※当日有効の本展チケット、展覧会無料対象者の方は各種証明書等をお持ちのうえ 3 階展示室入口にお集まりください。

[Antenna*付きギャラリートーク]

○12 月 19 日（金）16:00 - 手話通訳付き
会場：東京都写真美術館 3F 展示室
定員：6 名（事前申込制、応募多数の場合は抽選）
参加費：無料

*Antenna・・・髪の毛や耳たぶ、えり元やそで口などに付けることで、振動と光によって音の特徴を感じることができる装置。ろう・難聴者と聴者が共に楽しむ未来を目指し、ろう者と聴者の協働で開発された。

[筆談鑑賞会「遠い窓へ 日本の新進作家 vol. 22」手話通訳付きインクルーシブワークショップ]
聞こえない人、聞こえにくい人、聞こえる人が筆談をしながら一緒に作品鑑賞を楽しむプログラム

○11 月 8 日（土）14:00-16:30
案内人：小笠原新也（耳の聞こえない鑑賞案内人）
会場：東京都写真美術館 3F 展示室
対象：小学 4 年生以上、どなたでも
定員：10 名（事前申込制、応募多数の場合は抽選）
参加費：無料

開催概要

遠い窓へ 日本の新進作家 vol. 22

Thoughts of a Distant Window: Contemporary Japanese Photography vol. 22

会期 | 2025年9月30日(火) - 2025年1月7日(水)

会場 | 東京都写真美術館 3階展示室

主催 | 東京都写真美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)、東京新聞

協賛 | 東京都写真美術館支援会員

電話 | 03-3280-0099 WEB | www.topmuseum.jp

開館時間 | 10:00-18:00 (木・金は20:00まで) 入館は閉館30分前まで

休館日 | 毎週月曜日 (月曜日が祝休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始 (12/29-1/1)

観覧料 | 一般700円、学生560円、中高生・65歳以上350円

※ 中学生以下及び障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2名まで)は無料

※ オンラインで日時指定チケットを購入いただけます

[お問い合わせ先]

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。掲載をご希望の際は、広報担当までご連絡ください。

* 図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。

* オンライン媒体への図版掲載は作品保護の観点から、長辺800~1000ピクセル以下をご利用ください。

* 図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

東京都写真美術館 〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM 電話 03-3280-0034 / FAX 03-3280-0033 / www.topmuseum.jp

東京都写真美術館 管理課企画広報係 press-info@topmuseum.jp

展覧会担当 大崎千野 (東京都写真美術館学芸員)

本展は諸般の事情により、内容を変更することがございます。最新情報は当館ウェブサイトをご確認ください。